

St. Luke's International University Repository

第33回聖路加看護大学セミナー:学術活動報告 (2001年度)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩井, 郁子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/426

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



第33回聖路加看護大学セミナー

「Evidence Based Nursing—その基本と実践・研究・教育への活用—」

2001年9月22日第33回聖路加看護大学セミナーを開催した。

本学セミナーは、看護学—実践・研究・教育—をめぐる先端的で国際的なテーマを選択し、開催しているが、2001年度から教員達の意見によって今までの「公開講座」を「聖路加看護大学セミナー」という名称に改めた。その理由はすでに本学で開講している講座を公開するのではなく、大学の機能の一つである看護職者への生涯教育の一環として新たに企画し開催しているという理由からである。

看護は理念から実証の時代へと動き、Evidence すなわち研究結果を根拠とした実践が強調されている。このことから今回のセミナーでは看護学—実践・研究・教育—において避けて通ることができない Evidence Based Nursing (EBN) に焦点をあてた。

企画の意図は、EBN とは何か、今なぜ EBN なのか、そのプロセス・文献検索や文献の批判的検討など EBN の基本から、具体的に実践・研究・教育にこれらの考え方をどのように活用するのか、具体的に実践例も学べることを目的とした。

講師として EBN に関する第1人者でもあるリンダ・ジョンストン準教授 (Linda Johnston PhD, RN, オーストラリア, メルボルン大学および王立小児病院準教授, ビクトリア看護実践研究センター副センター長, 季刊誌 Evidence Based Nursing 編集委員), 聖路加看護大学 松本直子司書, 聖路加看護大学小松浩子教授, 作手村国民健康保険診療所名郷直樹医師を招聘し、講演とフォーラムを行った。

今回は広報委員会の企画でオープンキャンパスの一環として受講を希望する高校生を受け入れ、3階の教室をサテライトとして使用したことも新しい試みであった。

参加者は472名の看護職者と6名の高校生であった。アンケート結果 (回収率53%) は、81%の方が「良かった」と答え「新しい知見が得られた」70%、「今後実践に役立つ」60%、これらすべてにおいて「まあまあ」を含めると99%が良かったと回答していた。94件の自由記載には、今後の実践・研究・教育への取り組みへの示唆を得、学びが多かったこと、素晴らしい講師陣への感謝が記載されていた。

次回への課題は、開催時間を短縮すること、サテライトの使用を再検討することなどである。

(公開講座委員会 委員長: 岩井 郁子)